

## 第12分科会 「自立と共生」 運営概要

- 【研究課題】 自立や共生の実現に向けた特別支援教育と環境教育の推進における校長の在り方  
【研究の視点】 1 子どもの自立を図る特別支援教育の推進  
2 持続可能な社会の担い手を育み、教科・領域との関連を図った環境教育の推進

### I 分科会研究協議の運営計画

我が国が目指している社会は、互いの人格と個性を尊重し支え合う共生社会である。その実現のために、小学校教育においては、自分らしさを大切にしながら、夢や希望をもって「自立する力」を育むとともに、一人一人が仲間として支え合いながら、より良い社会を築いていこうとする「共生」と世界中で深刻化する環境問題の課題解決に向かう自然との「共生」の態度を養うことが大切である。

学校においては、障がいの有無に関わらず誰もが相互に尊重し合える共生社会を築くために、障がいのある子どもの自立や社会参加に向けた主体的な取組を支援する必要がある。このような視点に立って、子ども一人一人の教育的ニーズを把握するとともに能力を高め、生活や学習上の困難を改善または克服できるような指導及び支援を行うことが重要である。これらのことは、特別な教育的支援を必要とする子どもが在籍する全ての学校においてなされるものである。

また、環境汚染や異常気象、自然災害の多発等の地球環境の悪化を受け、環境破壊の抑止、生物多様性の保全等の地球環境保全の考えに立ち、自然環境の保護・整備や循環型社会の形成に向けた意識改革を図り、かけがえのない地球全体の環境保全に取り組む意欲を高め、能力を育成する環境教育の推進が望まれている。

ここでは、全教職員が「自立と共生」の社会づくりにおける特別支援教育や環境教育の役割について共通認識に立ち、一体となって推進していく校内指導体制の確立や、家庭・地域・関係機関との連携等を進めることが重要となる。

本分科会では、子どもの自立を図るための特別支援教育や、「持続可能な社会」の担い手を育む環境教育を推進するための具体的な方策と成果を明らかにする。

#### 視 点 1 子どもの自立を図る特別支援教育の推進

- ・特別支援教育の校内支援体制の整備と関係機関等との連携の在り方
- ・特別支援教育の推進を目指す教職員の意識改革と専門性の向上

#### 視 点 2 持続可能な社会の担い手を育み、教科・領域との関連を図った環境教育の推進

- ・各教科、道徳、特別活動、総合的な学習の時間等の関連を図り、全校体制で取り組む環境教育の推進
- ・家庭、地域、関係機関との連携を図り、環境保全に主体的に取り組む態度と能力を育てる実践的な活動の工夫

### II 昨年度までの成果・課題

【成果】 視点1～各学校では、特別支援教育コーディネーターを中心とした組織的な校内の整備が進められている。また、各関係機関との連携も進んでおり、総合的に特別支援教育体制が充実してきている。保護者への適切な対応や子ども一人一人の教育的ニーズをとらえ、具体的な配慮や支援の共通理解が組織的に進められ、行政機関や異校種間の連携が進んでいることが明らかになった。

視点2～持続可能な社会づくりに貢献する人材の育成というねらいをもち、教育計画への位置付けを明確にした学習活動の展開が大切なこと、教育課程編成における校長のリーダーシップが重要であることが共有された。さらにゴールを明確にし、社会教育のつながりの中で継続的に展開していくこと、地域の実態に対応した課題からの取組が重要であることが確認できた。

【課題】 視点1～特別支援教育の対象になる児童は増加傾向にあり、一人一人の子どもの障がいの状態や発達の段階に応じた指導や支援を一層充実させていく必要がある。教育環

境整備のための行政の一層の支援が必要である。また、障がいの有無や差異、様々な違いをもった子どもたちができるだけ同じ場で学ぶこと、子どもの教育的ニーズに対して的確な指導ができるよう、多様で柔軟な仕組みを整備することが必要である。

視点2～環境教育の充実にあたり、ゴールの明確化、活動の精選、学習時間や指導者の確保など、校長のマネジメントを発揮することが必要である。地域の特性を生かしたつながりをもった環境教育計画をいかに充実させるか、保護者・地域との連携の在り方や取組の評価をどのように進めるかなど、一層の工夫が必要である。

### Ⅲ 研究発表の概要

#### 1 研究発表者：小樽地区 小樽市立塩谷小学校 校長 堀 智 行

「自然環境を大切にすると実践力を育てる環境教育の推進における校長の役割と指導性」

#### 2 発表の趣旨

地球的規模の環境問題が存在する中、地球資源の効果的利用や環境負荷の最小限化を図り、全ての人々が健康で文化的な生活を営むことができる「持続可能な社会」の構築が求められている。そのため、今日の環境教育は、「経済」「社会」「文化」なども視野に入れた総合的な視野をもつ、「持続可能な社会」の形成者の育成を期すことが目的となっている。

小樽市校長会では、3か年計画を立て、小樽市の全小学校における実態を詳しく調査するとともに、それらをもとに環境教育の推進と充実に向けて、校長の果たすべき役割とリーダーシップの発揮はどうあるべきかについて究明していく。

#### 3 発表の概要

##### (1) 研究主題

「自然環境を大切にすると実践力を育てる環境教育の推進における校長の役割と指導性」

##### (2) 研究計画 1年次～全市アンケート調査による実態把握 2年次～実践 3年次～まとめ

##### (3) 今年度の研究

【視点1】学校の教育活動全体を通して取り組む環境教育の推進

【視点2】自然を大切にすると実践的な態度を育てる環境教育の推進

##### (4) 2年間にわたる市内の環境教育の改善状況、環境教育の実践例

##### (5) まとめ 成果と課題

### Ⅳ 討議の流れ

- |                      |                    |
|----------------------|--------------------|
| 1 開会・日程確認 (5分)       |                    |
| 2 趣旨説明 (10分)         | <休憩> (10分)         |
| 3 研究発表 (25分)         | 8 グループ討議2 (40分)    |
| 4 感想・キーワード等を書く (10分) | 9 発表2 (18分)        |
| 5 質疑応答・感想 (10分)      | 10 全体交流 (10分)      |
| 6 グループ討議1 (40分)      | 11 まとめと今後の課題 (10分) |
| 7 発表1 (18分)          | 12 連絡・閉会 (4分)      |

### Ⅴ 討議の柱

#### 【視点1】「子どもの自立を図る特別支援教育の推進における校長の役割と指導性」

キーワード：校内支援体制、関係機関との連携、教職員の意識改革、専門性の向上等

#### 【視点2】「学校全体で組織的・計画的に取り組む環境教育の推進における校長の役割と指導性」

キーワード：教育課程の工夫、地域・関係機関との連携、指導体制づくり、教科・領域との関連  
主体的に取り組む態度等

#### お願い

- ◇各校の特別支援教育や環境教育の取組についてグループ討議の中で交流します。
- ◇自校の「特別支援教育の取組や課題」「環境教育の取組や課題」を端的にまとめた資料がありましたら（それぞれA4版 1枚程度 表裏印刷可）10部お持ちよりください。
- ◇名刺を10枚程ご用意ください。